

日刊 動労千葉

85. 12. 28

No. 2129

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

この一年間をふりかえって



「やればできる」ことをさし示したわが第一波

津田沼支部 綾部光男

内外情勢のすさまじい危機と激動のなかで明け暮れたこの一年間は、動労千葉の路線の正義性をよりいっそう不動のものとし、「三里塚と国鉄で中曽根を打倒する運動」の真価を発揮する闘いそのものであったと言えます。とりわけ国鉄当局によるワッペン・名札に対する国鉄史上初めての不当処分をはじめ、デマとペテンでぬりかためられた分割・民営化攻撃に圧殺され続けてきた国鉄労働者の最先頭にたち分割・民営化の正体をあばき日帝中曽根体制が真に恐れる闘いとして大弾圧体制をぶち破り、11・28／29ストを打ちぬいたことは、やればできるんだという自信と確信を倍加させるものであった。

この歴史的な闘いを担うことができたわが津田沼支部は、本当に労働者が怒り、奴隷の

動労千葉の皆様へ

動労千葉の十一・二八／二九のストライキに心から敬意を表します。首をかけた家族をもかけた偉大な闘いに連帯し、あとに続く闘いを必ずつくり出していく決意です。動労千葉をどんなことがあっても守りぬきます。共にがんばりましょう。十二月十八日

ハダで感じとった厚い支持の層

幕張支部 白井忠博

国鉄問題で明け暮れた八五年、実にさまざまなことを経験した一年でありました。「六〇・三ダイ改」闘争、十一月末ストの大きな二つのヤマをこした今、ふりかえってみると、まさに「四面楚歌」かつてない厳しい情勢のなかで闘いぬいた十一・二八／二九ストライキ、国鉄労働者の怒りとやむにやまれぬ気持を一身に背おい闘った津田沼・千葉転支部の組合員にあらためて敬意を表します。

作家の井上ひさしさんが国鉄問題についてある雑誌でこう言っています。「……国鉄をここまで追い込んだ責任者を出せたい。国鉄総裁は会社でいうと課長ぐらいで、社長や重役は田中だったり鈴木だったり銀行や新日鉄の偉い人だ。そうした真犯人をばかしておいて、民営化で財界は最後のほうけとして大都市の真ん中にある国鉄の敷地を狙っている……。」

中曽根は、この大問題を茶ぼうず審議会で

千葉市要町二一八
動力車労働組合
幕張支部

11.28

歴史的ストライキの大弾圧を許さないぞ！
被爆者、被爆二世は動労千葉を守り抜く！
—全国被爆者青年同盟—

電子郵便

（関西）A電機製作所有志

決めて、国民がのぞんでいるかのようにいつているが、分割・民営化の前に一度、国鉄にまかせたらどうだ・と「五〇〇〇万人署名」運動をやるなかで、私たちは支持する厚い層のあることをハダで感じとっている。

そして、この一年間でつちかした貴重な経験を今後の運動の糧にしていこう。

（支部副委員長）

道を拒否し、決意し、団結し闘うならば必ず勝利できるということを教えてくれた。この一年間の闘いを教訓化しようではありませんか。こうした成果のうえにたつて中曽根や国鉄当局の先兵となり、セクト的に生き残るため、国労・動労千葉の首切りを要請する動労「本部」革マル追放・一掃の闘いも決定的に重要になっていきます。

（支部書記長）

必死で闘えば中曽根おそるるに足らず

佐倉支部 田中龍美

今年一年間の闘いをかえりみると、一口で言うて労働者が必死で闘えば国家権力、中曽根はおそるるに足らないものである事が証明された年であったと言えます。

第一の証左は、10・20三里塚現地闘争での闘いであり、第二の証左は、われわれ動労千葉の11・28／29ストライキであったと思います。

10・20三里塚現地闘争での機動隊の暴圧に対する労働者・人民の怒りの反撃は、日帝・中曽根の機動隊政治をこなごなにうち破り、三里塚反対同盟を中心とする三里塚勢力の怒りのすごさを指し示した久びさの快勝と言えます。

われわれ動労千葉の国鉄分割・民営化10万人首切り攻撃に対する国鉄労働者の怒りを満天下に指し示す偉大なストライキを敢然と闘い、ゲリラを口実とした国家権力・機動隊九五〇〇名の弾圧をもののみごとに粉砕した。労働者が職場を武器にストをうちぬくならば、権力は何もできないことを示すものだ。第二波・第三波のストライキをうちぬくため、佐倉支部もその先頭を担いたい。

（支部書記長）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！